

下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和5年度第3回下野市子ども・子育て会議
日 時 令和6年3月22日（金） 午前10時00分から11時45分まで
会 場 国分寺公民館 101会議室
出席者 一戸幸宏委員、新田知明委員、金澤芳之委員、小倉庸寛委員、
佐間田香委員、近藤令兒委員、中田好則委員
【欠席委員】大橋なみ子委員、小池里美委員、川中子源委員、
津野田仁大委員、野口恵美委員、藤川智子委員、小林勲委員
市側出席者（事務局）福田健康福祉部長、浅香こども福祉課長、
神田こども福祉課課長補佐、伊澤こども福祉課課長補佐、
篠原こども福祉課課長補佐、山家こども福祉課課長補佐、
泉田こども福祉課主幹、小林こども福祉課主事
公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
傍聴者 0名
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和6年3月25日

1. 開 会

（事務局、浅香課長）

ただいまより令和5年度第3回下野市子ども・子育て会議を開会いたします。まず、本日欠席の委員について、副会長の藤川智子委員、大橋なみ子委員、小池里美委員、津野田仁大委員、野口恵美委員、小林勲委員、川中子源委員からご連絡を受けております。また、今回は第3期下野市子ども・子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査の委託業者であります株式会社アールピーアイ栃木も同席しておりますので、ご承知をいただきたいと思います。それでは次第に則り、まず会長からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

2. 会長あいさつ

（佐間田会長） おはようございます。年度末のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。今回ニーズ調査の結果ということで、事務局の皆さんもありがとうございます。私たちもとても興味深い分野かと思っておりますので、今日はしっかりと話を聞いていきたいと思っております。いつものように意見に間違いはありませんので、反対意見が出て構いません。このニーズ調査が次年度以降の市の方針に関わってくることでありますので、言いたいことをしっかり言っていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございます。それでは議事の方に入らせていただきます。下野市子ども・子育て会議条例第6条第1項の規定により、会長に議事進行をお願いしたいと思います。佐間田会長よろしく申し上げます。

3. 議事録署名人の選任

(佐間田会長) それではまず議事録署名人の選任ですが、本会議の議事録署名人は新田知明委員に申し上げます。

4. 議事

(佐間田会長) 続きまして議事に入っていきたいと思います。第3期下野市子ども・子育て支援事業計画策定に関わるニーズ調査についての報告を事務局に説明をお願いします。

(事務局、神田課長補佐)

【下野市子ども・子育て支援計画ニーズ調査結果報告書 に基づき説明】

(佐間田会長) 事務局より報告がありました。皆様よりご質問やご意見など何かありますか。膨大な資料ですので、5分ほど資料を見返す時間をとります。途中で意見のある方がいましたら、挙手していただいても大丈夫です。皆様立場が違おうと思いますので、同じデータを読み取っても違う意見が出ると思います。来年度の私たち市民の生活に関わってくることで、思ったことを言っていたきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。私から2、3点くらい意見をお伝えしたいと思います。1つ目は、アンケートの回収率は良い方なのかなと思いますが、父親の就労状況や就労規模、両親の勤務時間を見た時に、子どもを預ける時間を10時間以上希望している方がいたので、私の娘に「それは子どもに負担になるかもしれないから、大変そうだね。」という話をしたら、「自分の今の勤務では10時間預けないと仕事を続けられないから、これは普通のことなのかもしれないよ。」という意見でした。このアンケートを答えてくれなかった方の中には面倒くさいから答えないというのではなく、忙しくて手をつけられない方、例えば育児やダブルワークで手をつけられない方もいたと思います。その人たちがバックにいるということ踏まえ、事務局にはこのアンケート結果をよく読み込んでいただきたいなとお願いしたいのが1点です。2点目は育児に関する意識調査で、前回調査よりも育児を楽しんでいることの方が多いという結果が減っていて、「楽しいと感じることと大変だと感じる事が同じくらい」という回答の方が多くなっています。これはすごくつらいところかなと思いますので、それをいい方向にできるようなアイデアが今後出てきたらうれしいなというところ。あともう1点ですが、先ほどご説明いただきました保護者の自由

記入欄について、どのようなご意見が出たとか、具体的な意見とか、見ることは可能でしょうか。膨大な量がある自由記入欄ですので、全てはなかなか難しいと思います。委員の方々は各自の立場でいろいろな子どもに密接に関わっている方々かと思しますので、どんな意見が出たかというのを、資料とかで提示していただくのは可能でしょうか。私たちは各々個人や企業人、会社人として、行政ではない分野で返せる部分があるかもしれません。ぜひそういうものがありましたら、ご提供いただけたらありがたいなと思います。

(事務局、神田課長補佐)

先ほど会長からご意見がありました自由記入欄の意見につきましては、一覧を委員の皆様配布したいと思います。

(佐間田会長) 皆様、ご意見ありませんか。

(近藤委員)

4ページ一番下に、就学前の回収件数は915件で有効件数は866件となりますと書いてありますが、調査結果のNを見るとほとんど915件になっています。例えば10ページの問5では、お住まいの小学校はどちらですかという質問の回答はN=915と書いてあります。有効件数が866件なら、そこは915ではなくて866になるのではないかと思います。無回答というのは、無回答が無効の回答になるのではないかと思いますので、全部Nが915だと無回答があるのに915というのはちょっと解せないというか、なんでだろうと思いました。アンケート集計のやり方がわからないので、パッと見たときにそれが素朴な疑問でした。

((株) アールピーアイ栃木)

今回の調査を担当させていただきました(株)アールピーアイ栃木の森と申します。よろしくお願いいたします。ただいまいただいたご質問に関して、大文字のNと小文字のnの2種類については前回の調査から継続して行っているものです。この大文字のNは、今回のアンケート調査を回答していただいた方の総数となっています。10ページ、N=915は、全員が回答したということです。そのうちの無回答1.0%については、回答した915人のうち、問5について無回答だった方の割合が1.0%となっています。小文字のnの割合についても、前回の調査から継続している部分です。例えば24ページです。こちらの問16では小文字n=866となっています。この有効回答件数866件の内訳としては、年齢別、家庭類型別という属性で割り振れる方を対象としています。915件と866件の差分は、家庭の状況を回答していない方やお子さんの年齢を回答されていない方を除いていることにより差分が発生し、それぞれ915件、866件となっています。また、小学生児童のほうも同様の考え方となっています。よろしくお願いいたします。

(金澤委員) 先ほどの回答していないというのは紙での回答ですか。

((株) アールピーアイ栃木)

紙での回答、WEB回答どちらの無回答も含めての割合としています。

(金澤委員) 実は私、今回の調査が該当となりました。WEB回答中、途中エラーが起きて回答が真っ白になり、失敗してしまいました。そういうものも集計されているのか、どうなのかが気になりました。

((株) アールピーアイ栃木)

今回については、下野市のシステムでWEBアンケートを実施しています。私どもでは、調査票の設計や紙媒体の作成、回答の集計でお手伝いさせていただいています。

(佐間田会長) 他にありませんか。

(近藤委員) 今の24ページの説明はわかります。「エヌ」がいろいろあるのは年齢が違うことや、25ページ問16で「利用している」を選択した方が答えるからNの数字が違ってくるのはわかります。38ページで、そこにまた大文字のNが書いてあって、915件から回答が得られているわけだから、それはもう当たり前なわけです。それを書くのではなくて、無回答を除いた小文字のnを書くのではないかなと思いますが、いかがですか。

((株) アールピーアイ栃木)

今回の調査では、報告書作成に関してルールを設けています。条件設問ではない質問については大文字のN、全体の総数を件数とし、グラフを作成しています。小文字のnの属性別有効回答件数については、条件設問の際に利用しています。あとはクロス集計、例えば24ページで年齢別や家庭類型別の属性でクロスしているグラフに関して小文字のnを使うというルール付けをしています。こういった属性別でグラフを作成する際には、総数と有効回答件数という2種類の数値を使用して報告書を作成しています。

(近藤委員) 先ほどおっしゃっていた回答のエラーは、集計されていないのですか。

((株) アールピーアイ栃木)

弊社では、下野市からWEBアンケートの回答結果データ一式をもらって集計しています。WEBアンケートの回答中でのエラーについては、下野市のシステム関係の部署に確認してもらう必要があるかなと思います。

(金澤委員) 最後に確認画面が出てきましたので、おそらく最後まで回答しないと回答終了にならないような感じだったと思います。

(近藤委員) はじめにと書いてあった部分は読みました。膨大な量なので、あとはもう専門の人にお任せするみたいなスタンスとなりました。ただ有効回答者数というのが少し引かかりました。有効回答数とは、調査で不適正な回答を除いた合計数だから、不適正な無効回答には当たらないわけですか。無回答は不適正な無効回答とはならないから、結局全部有効ということで、数字が全部 915 ということですか。

((株) アールピーアイ栃木)
おっしゃるとおりです。

(近藤委員) わかりました。ありがとうございました。

(佐間田会長) 他にありませんか。

(小倉委員) 回答結果で前回との比較はありますか。前回の回収率と今回の回収率の違いを教えてくださいのがまず一つです。次に 46 ページ地域子育て支援センターの利用についてです。ちょっと分かりにくいというか、質問を作成するときにもどうなのかなという話がありました。下のところに実施しているサービスが児童館と書いてありますが、それは周知が足りないか、支援があってないのか、「利用していない」という人が 8 割で、この中のアンケートでは非常に高いと思います。これは注目しなくてはいけない回答なのかなと思いました。次の 48 ページでは、「利用していないが、今後利用したいと思う」という設問でも、「利用回数を増やしたいとは思わない」という回答に 7 割の人が答えています。これはあっても利用しないのかなと少し思いましたし、地域子育て支援センターでやっている事業は意味がないとまでは言いませんが、3 割の人しか利用したい人がいなく、一部の方の特権に費用をかけるのは、費用対効果の面ではどうなのかなと思ったりしました。どこに支援することが保護者や家庭で求めているかという話になると、新しい回答の「経済的な支援」でした。経済的な支援とは何だろうと考えると、単純に補助をしてもらえればいいということなのか。保育料は今無償化で、さらに何か必要なのか。経済的な支援の考え方は多分、育児休暇を取るということも大きな経済的支援だと思います。この報告書では増えていますが、父親の育児参加、育休を取るというのは、下野市では取得率が高いという非常に良いところもあります。そういうところを企業はもちろんです、協力してもらわないといけないことだと思います。まずは身内から、公的な機関とか、市役所

とか、学校とか、私たち子どもに携わる仕事をしている事業者とか、そういうところが育児休業に積極的に取り組もうという、そこに経済的な支援をつけて欲しいと思いますし、この結果を見て私を感じたところかなと思います。もう一つは89ページで、先ほど会長が話していた「子育てについて楽しいと感じることはありますか。」という質問ですが、選択肢の回答項目を変えたのは私だったような気がします。つらいと感じるか、大変と感じるか、あまりつらいと感じることはないのかということだったと思います。これは質問の聞き方や考え方で前回もつらいとは思っていないけれど、全体的に見たら楽しいと感じることが多いということ、前は楽しいが多かったという判断だったかなと思います。今回は大変だと思っている人が増えましたが、割合は半々です。楽しいと思うけれど、大変だと感じることもある。「大変」と「つらい」というのは、個人的に考え方、感じ方が違うと思います。どんなに楽しくても大変なことであると思います。大変じゃないなんて思わない家庭はむしろないかと思います。大変と思うことは何なのかが読み取れないと、どこかに支援をしても、先ほどのように「利用しない」という回答が8割ということになるのかなと思います。本当に意味のある子育て支援をしないといけないなと思いました。佐間田会長が話していた、こんなに大変だと思う人が多いという結果ももちろんそうですが、逆に言えば思っていない人はいないし、つらいと思っている人はそれほど多くなかったのかなとも読み取れます。前回の質問と今回の質問を比べると、そういうことも見えてくるのかなと私は感じたところです。以上です。

(佐間田会長) 事務局お願いします。

(事務局、神田課長補佐)

前回の回収結果について、WEBアンケートは前回ありませんでしたが、就学前児童保護者に関しましては、配布件数1,400件に対して回収件数が940件で回収率が67.1%、小学生児童保護者に関しましては、配布件数が600件に対して回収件数が553件で92.2%、総計が2,000件に対して1,493件で74.7%となっています。

(小倉委員) 今回低くなったことに関して、どうしてかわかりますか。

(事務局、神田課長補佐)

今回小学生の回収率が減りましたが、前は直接この調査用紙を回収していました。今回からWEBを取り入れたことによって、調査票で必ず出さなくてはいけないという思いが、WEBによって敬遠されてしまった部分もあるかと推測します。

(小倉委員) 便利なようで、意外とそうでなかったということでしょうか。これはQRコードがついていたのでしょうか。

(金澤委員) QRコードでした。私はエラーが出てしまいましたが、忙しく隙間時間でしかやれなくて、前半は車でやって、あとは休憩時間にやろうかなと思っていたら、そこでデータが飛んでしまいました。多分セキュリティに力を入れていることが逆に出てしまい、そういったことになったかなと思います。おそらく大抵の人はデータが飛んでしまうと、回答が嫌になってしまうのかなと感じました。

(近藤委員) その後、調査用紙ではやらなかったのですか。

(金澤委員) 調査用紙ではやらず、せっかくなのでWEBで最後までやろうということを目指して、もう一度入力し直して回答しました。

(佐間田会長) ありがとうございます。

(金澤委員) 先ほどの子育て支援センターについてまた違う意見ですが、私もこの回答をしまして、知っているけど利用していないに回答をしました。なんで利用していないかという、既に保育施設に入園しているからです。私は薬師寺幼稚園に通っていて横に子育て支援センターがあります。何をやっているかも知っていますが、実際には利用していません。年齢別の結果をみていくと、大体の方は1年間育休をとられて、その間にママ友を集めるとか、情報交換とか、園選びとか、そういったことを目的として利用している方が多いということは把握しています。今回それがデータとして出てきているのではないかなと思います。0歳児で3割近くの方が利用しているということは施設として価値があると、実際に見ていてもそう思います。3か月くらいで入園する人はもう行くことはないと思いますが、多くの方に価値が出るように取組を頑張っていますし、それなりに広報活動もしています。

(小倉委員) そういうことですね。0, 1, 2歳の方だけが利用する子育て支援センターだったら多分意味がないと思います。3, 4, 5歳になっても、それこそ小学生になっても利用できるような施設なはずで、子育て支援センターは0, 1, 2歳児のためだけのものではないですね。3, 4, 5歳、それこそ小学校までアンケートを取っているのだから、そういうところまで支援ができるような施策、内容がないと、もう利用しないとなって終わりとなるわけで、そこが必要かなと思います。子育てって大変だなと思っているのは、そういうところかなと思います。

(金澤委員) 実際なかなか難しいとは思いますが、例えば児童館は18歳まで利用できるとなっておりますが、中学生になったら行かないですよ。それと同じようなことかと思えます。大変だと思う回答が多く出ていますので、その相談の窓口とか、そういったものを相談しやすくするとか、いろいろ工夫することができるのではないかと思います。

(小倉委員) 本当にそうですね。開放して利用者が全然いませんという話になるよりは少しでもいた方がいいですよ。

(佐間田会長) ご意見は何かありますか。事務局いかがですか。

(事務局、山家課長補佐)

先ほど金澤委員が言ったとおりで、支援センターについては、未就学児、年齢が低いところで集まっているということと、今は低年齢で園に入る子が増えていること。私は支援センターを全部回っていますが、やはり利用者が少なくなってきたという話は聞いています。何か違う事業が始められればということで、みるくとか、ゆりかごとかには妊婦さんからいろいろ聞いていただいているところです。ただ小学生や中学生に関しては、児童館でもう少し力を入れていけたらと思っています。今、中学生や高校生を巻き込んで、児童館に遊びに来るというよりは、小さい子どもたちと一緒に遊べるボランティアなど、小学校や中学校で生徒たちに話をしながら協力者を集めているところでもあります。昨年から力を入れていることなので、まだ花が咲いていないところです。あとは地域の方を巻き込みながら、公園が隣接するところもあって、土曜日も使えますので、幅広く誰でも遊べるようなところになっていけばと思っているところです。

(佐間田会長) 先ほど小倉委員が言っていたように、子育ては小さい頃だけで終わるわけではありません。私の子どもは大人になってしまいましたが、経済的支援に関してはむしろその後、10代になってからの経済的支援が欲しいくらいでした。子育て期間は小さい頃だけに限らず、大人になるまでの期間として見ていただきたいです。例えば家庭支援でも、教育では不登校とかそういったものが問題になってきますし、これから学校の部活動は地域に移行していく予定です。そういうのも踏まえて、育児期間という概念を長く取っていただいて、来年度以降のことを考えていただけたらありがたいと思います。まだ会議は続きますので、このアンケートについては最後にまたご意見があればいただきたいと思います。では第3期下野市子ども・子育て支援事業計画策定に関わるニーズ調査結果報告については、ここまでとし、次の議題に移りたいと思います。

(事務局、神田課長補佐)

本日出ました意見のほか、欠席されている委員もいますので、改めて意見をいただき、それを考察に反映できればと思っています。

(事務局、浅香課長)

今回の報告書は、はじめに申しましたように若干誤字脱字があります。これだけのボリュームのものを、会議の間際でのお渡しになってしまったというところもあります。本日欠席の方もいますので、改めて委員の皆様にはじっくりご覧いただき、その他自由意見もお送りさせていただきたいと思えます。その際にご意見いただく様式も一緒に送らせていただき、委員の皆様からいろいろご意見をいただきたいと思います。先ほど神田から説明した考察の部分ですが、ここについては委員の皆さんのご意見や先ほどお話のあったようなこともぜひ盛り込んでいきたいと思っています。郵送でのやりとりとなりますので、よろしくをお願いします。

(佐間田会長)

ではそのような方法で、ご意見をさせていただきたいと思えます。

続いて、(2) 第3期下野市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局、神田課長補佐)

【資料1 第3期 下野市子ども・子育て支援事業計画 策定スケジュール (案) に基づき説明】

(佐間田会長)

ただいま、事務局に説明がありました。質問はありますか。

【質疑なし】

(佐間田会長)

では次の議題に移らせていただきます。(3) 特定教育・保育施設の利用定員について、事務局より説明をお願いします。

(事務局、篠原課長補佐)

【資料2 利用定数 (案) に基づき説明】

(佐間田会長)

事務局の説明がありました。委員の皆様より質問はありますか。

【質疑なし】

(佐間田会長)

では次の議題に移らせていただきます。(4) 吉田保育園民営化後の保護者アンケート結果について報告をお願いします。

(事務局、篠原課長補佐) (吉田保育園 小倉園長)

【資料2 利用定数(案)に基づき説明】

(佐間田会長) ただいま説明がありました。委員の皆様より質問がありましたらお願いします。

私から1つ。吉田村ビレッジのパンが給食に出ているということで、地域に根ざして、とてもいいなと思いました。

(小倉園長) 保護者も吉田村ビレッジのパンを食べたくて、給食試食会の際はパンにしてくださいという要望が出るので、パンにしたりします。やはりおいしいと言ってくれます。「あなたたち高いパンを食べていいわね」とお母さんがお子さんに言っていました。今まで使っていたパンは冷凍パンで、パンの単価は実は高かったです。ビレッジから今日焼いた朝のパンを直接持ってきてくれますので、コスト的に丸パンのほうが安く済んでいます。本当にありがたいです。協力してもらっているから、安く仕入れて提供できている状況です。給食で出るときにはまだパンが温かいですよ。

(佐間田会長) それは大人も食べたくくなりますね。ありがとうございます。他にご意見ご質問はありますか。

(事務局、浅香課長)

地域の夏祭りとか、村祭りとか、いろんな伝統行事にも積極的に参加してくれていますし、民営化されたメリットで自由度が高くできるので、地域に密着した保育をしていただいております。

(佐間田会長) それを機に周辺の住民が増えるといいですね。

(小倉園長) 新聞に出してもらいましたが、夏祭りで盆踊りがあるから吉田小唄という歌で盆踊りをしようということになり、60年ぶりに小唄が復活して盆踊りを踊りました。踊りは吉田保育園が考えるようにと話をしてもらったので、子どもたちと先生で盆踊りを考えました。60年ぶりに歌う吉田小唄で園児たちが盆踊りを踊ることは、すごくよかったです。保護者も喜んでいましたし、地域の方も踊ってくれました。

(佐間田会長) 地域で子どもを育てていくという視点が出来上がったらすごく嬉しいことだと思います。

(小倉園長) おかげさまで地域の仲間に入れていただいております。

(佐間田会長) ありがとうございました。では、次の議題に入ります。(5) わかば保育園学童クラブの整備について、事務局より説明をお願いします。

(事務局、神田課長補佐)

【資料4 わかば保育園学童クラブの整備についてに基づき説明】

(佐間田会長) ただいま事務局から説明がありました。皆様からご質問ありますか。開設単位というのは①、②、③とあり、どういう分け方でしょうか。3クラスということですか。

(事務局、神田課長補佐)

3クラスということですか。

(佐間田会長) 学年で分けるとかですか。

(金澤委員) こちらは部屋数です。学童の専用区域として3部屋を設け、それが面積的に1部屋の人数になります。一応、大きめに作っています。

(佐間田会長) 他にはありますか。

【質疑なし】

5. その他

(佐間田会長) では次第5、その他に移ります。まず、(1) 新年度組織改編について事務局より説明をお願いします。

(事務局、伊澤課長補佐)

【資料5 組織改編表、健康福祉部再編について に基づき説明】

(佐間田会長) 続きまして(2) 新年度の新たな取組について事務局より説明をお願いします。

(事務局、篠原課長補佐)

【資料6 育児休業中の継続入園について及び

資料7 保育所等副食費補助事業について に基づき説明】

(佐間田会長) ご質問等ありませんか。

【質疑なし】

(佐間田会長) 本日の議事はこちらで終了となります。皆様からご意見を頂戴できればと思っています。一人一言頂戴できたらと思います。

(中田委員) 委員の中田です。報告書 148 ページで、保護者の就労状況についてという問いです。就学前はフルタイム就労しており、産休育休介護休業中ではない方が 33.6%で、これは合っていますが、小学生児童保護者はパートタイムで就労しているという方が最も多くなり 41.2%となっています。これはパートタイムではなく、フルタイムで就労している方の間違いかと思います。また、弊社はパートタイムがいなくて、フルタイムいわゆる全員が正社員ということになります。働いている者のほとんどが女性ですので、実際に産前産後休暇、育児休暇を取っている者もいますし、保育園や幼稚園とかに預けながら仕事をしている者もいます。毎回会議に出させていただいているといろいろな内容があり、そうなんだと思うことがあります。小学校に入った時期にパートの方がフルタイムにする方が、今回の報告書を見てもたまたまかかもしれませんが、少し増えていると思いました。弊社として、お子さんを育てながら働ける環境ということで例を一つ紹介させていただきます。指定の感染症インフルエンザやはしかになった場合に、有給を使ってもらうこともありますが、有給以外に年間 5 日間の特別な有給を与えられます。有給が減らないようにと、5 年ぐらい前から取り組みをしています。雇用する立場として、少しでもお子さんを育てていくという環境を整えていかなければならないのかなと思っています。経済的支援が 1 番多いという結果がありました。企業としてできるところやできないところがあります。例えば育児休暇に入った場合、給料は基本的に出ませんし、手当が雇用保険で給料の 7 割ぐらいになってしまうというところもあります。そういったところについて、市役所や公的のところ、それから我々民間で一緒になってやっていければなと思いました。

(佐間田会長) では近藤委員お願いします。

(近藤委員) 私も子どもは大きくなっていますが、以前は栃木県で発行している「つぎつぎカード」を利用していました。身近にあるカンセキとかで割引などの特典があってとても良いものでした。あれは何歳までの子がいる方が対象でしたか。

(事務局、神田課長補佐)

18 歳未満の子がいる方が対象です。

(佐間田委員) では小倉委員お願いします

(小倉委員) 私からは特にありません。

(佐間田会長) 金澤委員お願いします。

(金澤委員) こちらの報告書は興味深く拝見させていただきました。まだ全部読み込んでいませんが、何かありましたらお話をさせていただきます。

(佐間田委員) 一戸委員お願いします。

(一戸委員) 私の分ではなく、私の孫の分でこのニーズ調査が来ました。8月に生まれたばかりで、息子は別に住んでいますから、間違いなくやってねと話をしました。近くに住んでいますので、どういうことを答えていたのか聞きながら、私は勉強していきたいと思っています。息子はWEBでやって1日だけでは終わらなく、少し日数がかかったようです。そういうところが少し大変であるのかなと思いつつ息子の話を聞いていました。少しでも改善できればと思いますし、今後も引き続きやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(佐間田会長) 事務局には1年間、お世話になりました。本当に私たちの意見を反映してくれているなというのが分かって、庁舎のこども福祉課前のスペースがかなり変わったなと思いました。ありがたく思っています。まだ任期が1年ありますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。委員の皆様には貴重なご意見などをいただき、本日はありがとうございました。それでは進行を事務局に戻したいと思っております。

(事務局、浅香課長)

長時間にわたりありがとうございました。また、今回ご紹介したような子育てスペースの改善であったり、育児休業の継続入園の改善であったり、委員の皆様からいただいた意見を真摯に受け止めまして、施設長会議や様々な関係機関とも調整しながら、実現できるものは実現できるよう努力してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。締めの前に一言、健康福祉部長の福田よりご挨拶申し上げます。

(事務局、福田部長)

それでは一言ご挨拶させていただきます。本市におきましては、子育て支援の充実を図るということで、今年度の新たな取組としましては、見守りを兼ねたおむつ券の交付や、健康増進課所管の出産・子育て応援給付金、妊娠届と出生届を出していただいた際に面談を行い、それぞれ5万円を給付する支

援策を行ってまいりました。来年度については、先ほど担当からもいくつか説明させていただきましたが、皆様ご存知のように、児童手当の拡充、これは国を挙げて高校生の年代まで手当を拡充します。その他にも、健康増進課所管、乳児1か月児健診費用の助成。そういったものも新たに令和6年度から実施していく予定となっております。今回、アンケート調査を行ったところですが、この結果を踏まえ、分析をしまして、来年度1年間かけて事業計画の策定をしていければと思っております。引き続き皆様方にはご支援を賜りお伺いしたいと思っております。最後に私事になりますが、3月31日をもって、役職定年ということになります。今後とも引き続き皆様方にはいろいろお世話になるかと思っておりますが、よろしく願いいたします。これまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございました。それでは、次の開催につきましては、先ほどスケジュールでも説明しましたように、新年度になります。令和6年度の7月中旬頃を予定しておりますので、また決まり次第ご通知を差し上げたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、以上をもちまして令和5年度第3回下野市子ども・子育て会議を閉会いたします。誠にありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためここに署名する。

会 長

議事録署名人